

第三回運営委員会

ジャカルタ首都圏投資促進特別地域 (MPA)



2012年10月

MPA マスタープランの経緯

小技術委員会(セクター別)



技術委員会



運営委員会



MPA 委員会	2011								2012							
	3	...	6	7	8	9	10	...	1	...	4	5	6	7	...	10
運営委員会 (SC)		...														
第1回SC (早期実施事業の承認)	◆	...														
第2回 SC (ビジョン2030の承認)		...				◆										
第3回 SC (マスタープランの承認) ◀																◆
技術委員会 (TC)		...														
第1回TC (Kick-off)		...	■													
第2回TC (インセプションレポート)		...		■												
第3回TC (ビジョン2030/優先事業リスト)		...			■											
第4回TC (マスタープラン2020/早期実施事業の進捗)		...							■							
第5回TC (優先事業リスト)		...									■					
第6回TC (成果品の最終化)														■		
早期実施事業の進捗モニタリング		...	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

Note: FTPs: 早期実施事業, PPs: 優先事業

- 上記委員会の開催前に、必要に応じて、小技術委員会、セクター別ミーティングが開催された。

技術委員会からの報告

I. MPAマスタープラン2020:

(技術委員会の提言(1)): MPAマスタープランの承認

II. 早期実施事業および優先事業

(技術委員会の提言(2)): 事業実施のモニタリングの継続、
およびフラッグシップ事業の合意

III. 今後の展望

(技術委員会の提言(3)): 事業実施加速化に向けた体制
および枠組みの整備

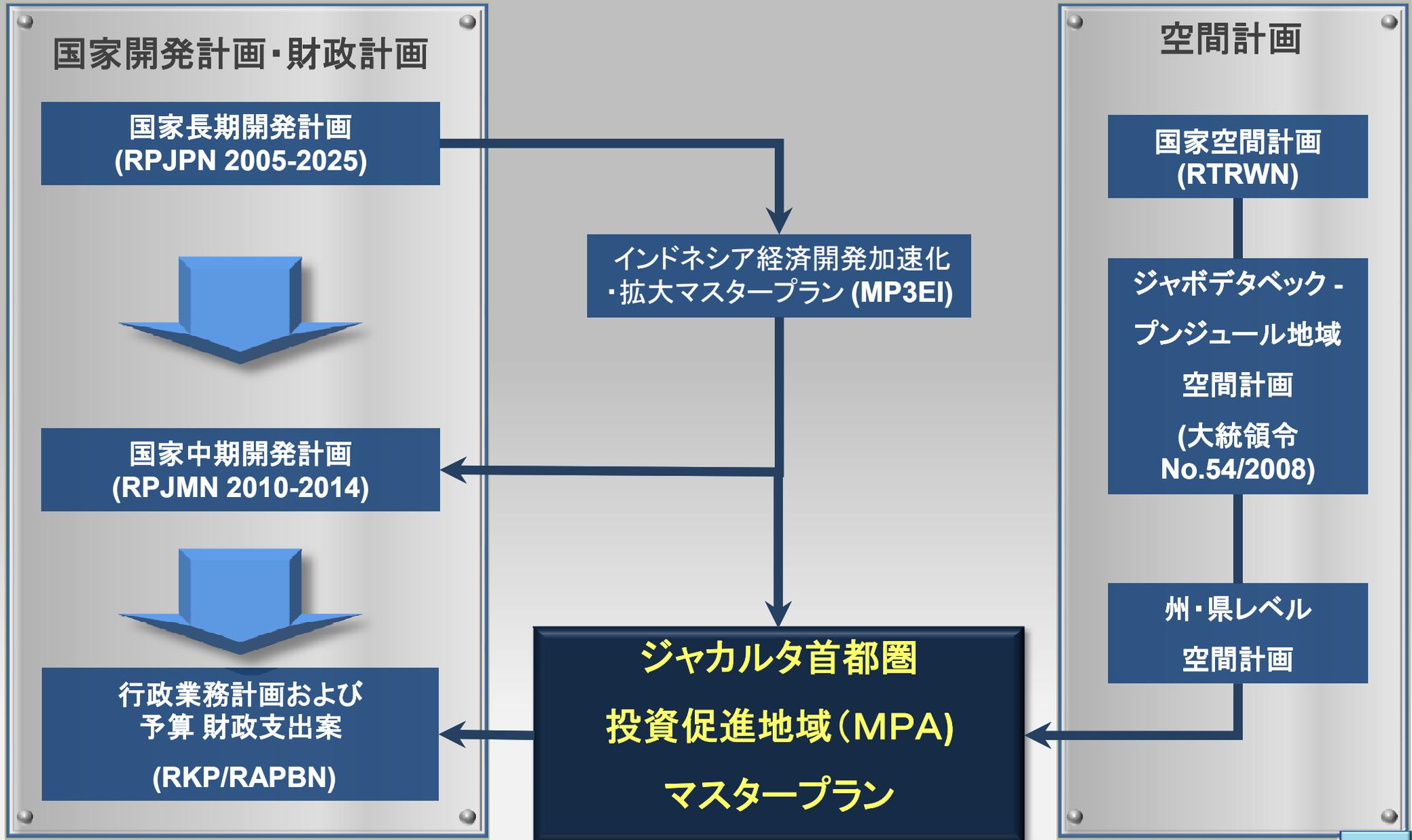
I. MPAマスタープラン2020

(概要)

1. 調査の背景
2. ジャカルタ首都圏の現況
3. インフラ整備の状況
4. 2030年に向けたMPAビジョン
5. 2020年に向けたMPAマスタープランの戦略
6. 2020年に向けたセクター別マスタープラン

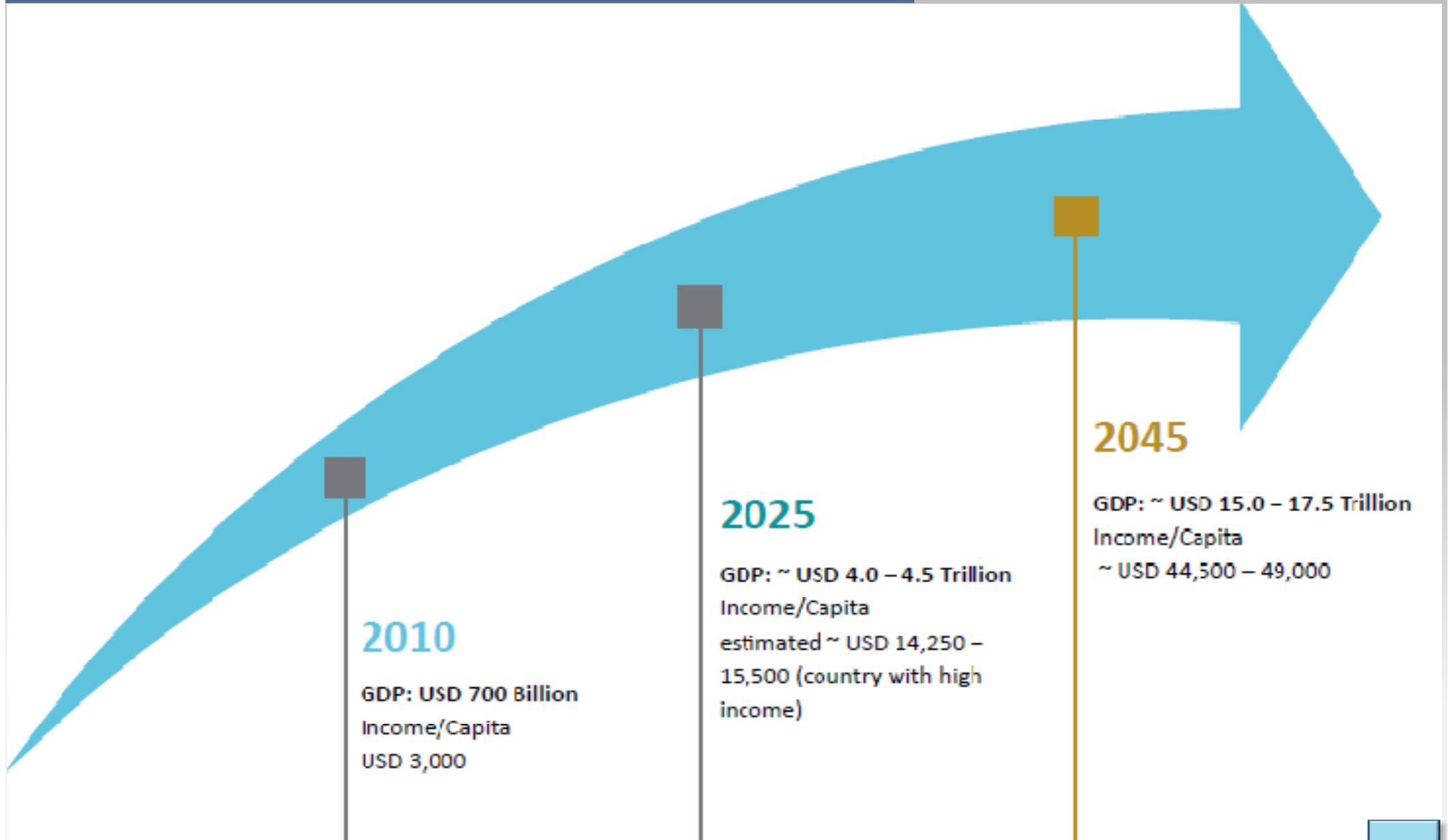
1. 調査の背景 - MPAマスタープランの位置付け -

MPAマスタープランとMP3EI等の国家計画との関係



1. 調査の背景 - MP3EIにおける将来のGDPの成長 -

MP3EIにおけるインドネシアのGDP成長計画

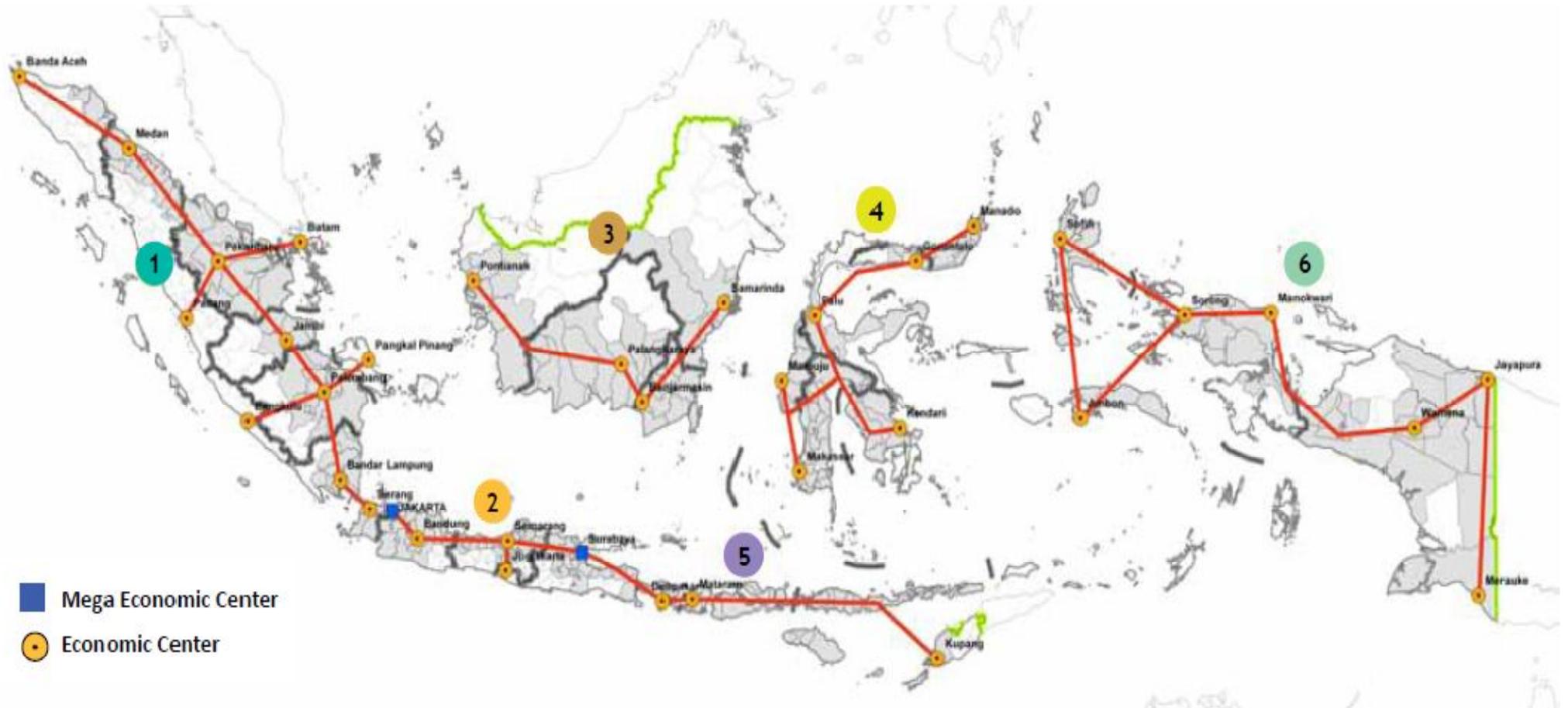


Source: MP3EI

1. 調査の背景

- MP3EIの経済回廊 -

MP3EIで策定された6つの経済回廊



- ① スマトラ ② ジャワ ③ カリマンタン ④ スラウェシ ⑤ バリ-ヌサトゥンガラ ⑥ パプア-マルク

Source: MP3EI

1. 調査の背景

- MP3EIへのMPAの寄与 -

MPAはMP3EIの経済回廊にどのように寄与するか？



Source: MP3EI

1. 調査の背景 - インドネシアの現在の立ち位置 -

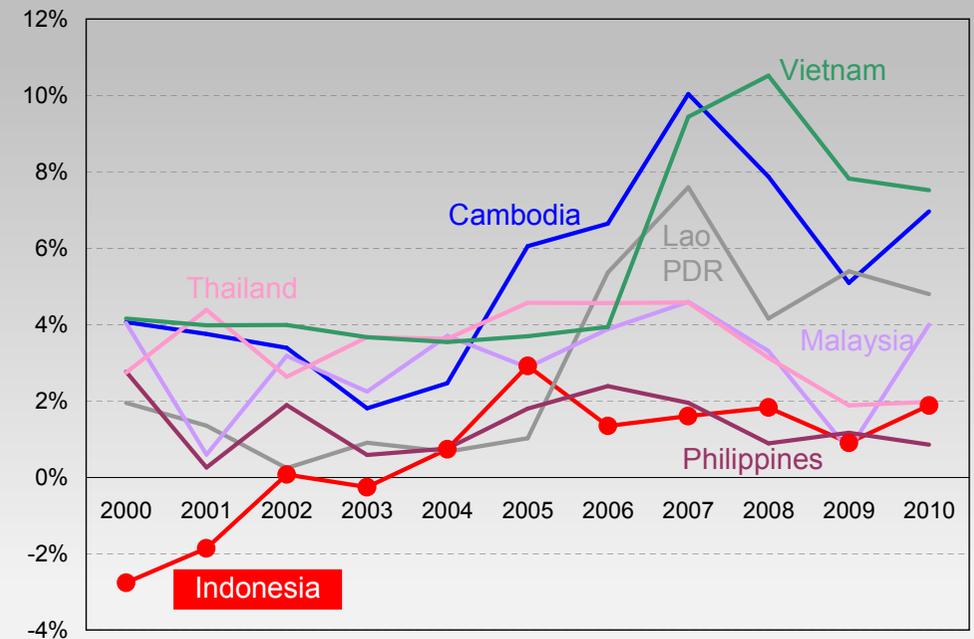
インドネシアは外国直接投資 (FDI) を獲得すべく、他国に比べ、より魅力的な投資先となる必要がある。

a) 競争力関連指標におけるランキング

Rank (out of 142 countries)

	Global Competitiveness Index 2011-2012	Institutions	Infrastructure	Macroeconomic environment	Health and primary education	Higher education and training	Goods market efficiency	Labor market efficiency	Financial Market development	Technological readiness	Market size	Business Sophistication	Innovation
Singapore	2	1	3	9	3	4	1	2	1	10	37	15	8
Malaysia	21	30	26	29	33	38	15	20	3	44	29	20	24
China	26	48	44	10	32	58	45	36	48	77	2	37	29
Thailand	39	67	42	28	83	62	42	30	50	84	22	47	54
Indonesia	46	71	76	23	64	69	67	94	69	94	15	45	36
India	56	69	89	105	101	87	70	81	21	93	3	43	38
South Africa	50	46	62	55	131	73	32	95	4	76	25	38	41
Brazil	53	77	64	115	87	57	113	83	43	54	10	31	44
Vietnam	65	87	90	65	73	103	75	46	73	79	33	87	66
Russian Federation	66	128	48	44	68	52	128	65	127	68	8	114	71
Philippines	75	117	105	54	92	71	88	113	71	83	36	57	108

b) FDI/GDP比の経年変化



Source: World Economic Forum, Global Competitiveness Report 2011-2012

2. ジャカルタ首都圏の現況

2.1 社会状況

現在の人口密度はジャカルタ特別州が最も高いが、人口成長率は周辺都市の方が上回っている。

a) 人口密度 (2010)

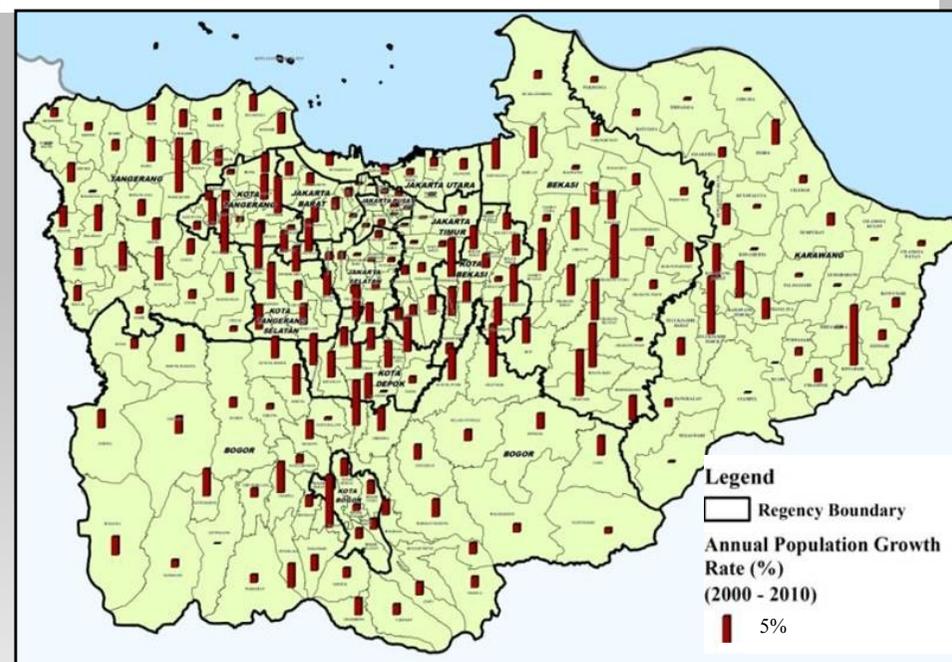


Source: Central Statistical Bureau

市/ 県	面積 (km ²)	人口		
		2000	2010	年成長率 2000-2010
JABODETABEK MPA	6,400.71	21,232,069	27,951,404	2.79%
DKI Jakarta	664.01	8,389,443	9,588,198	1.34%
MPA East	1,480.00	3,332,296	4,966,040	4.07%
MPA South	2,981.77	5,403,048	7,456,375	3.27%
MPA West	1,274.93	4,107,282	4,900,771	3.76%

Source: Central Statistical Bureau

b) 人口成長率 (2000-2010)



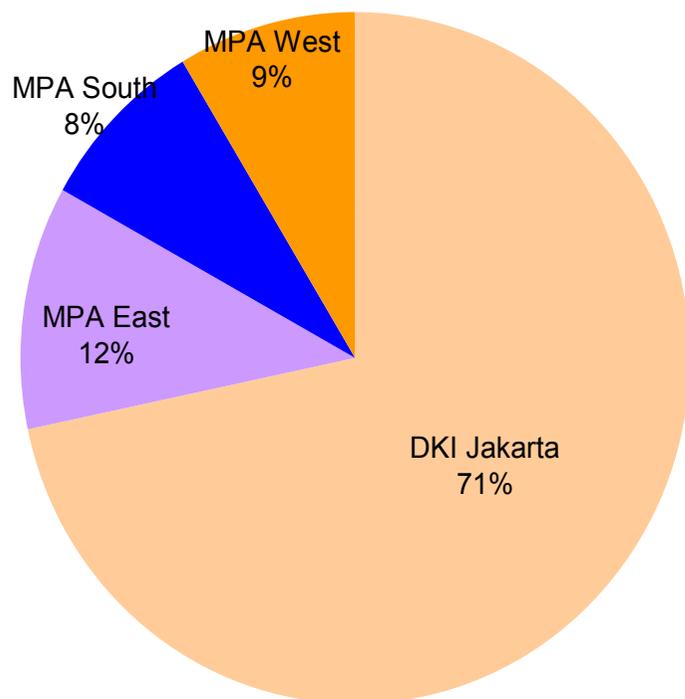
Source: Central Statistical Bureau

- MPA East: Kota Bekasi
Kab. Bekasi
- MPA South: Kota Depok
Kota Bogor
Kab. Bogor
- MPA West : Kota Tangerang
Kota Tangerang Selatan
Kab. Tangerang

2. ジャカルタ首都圏の現況

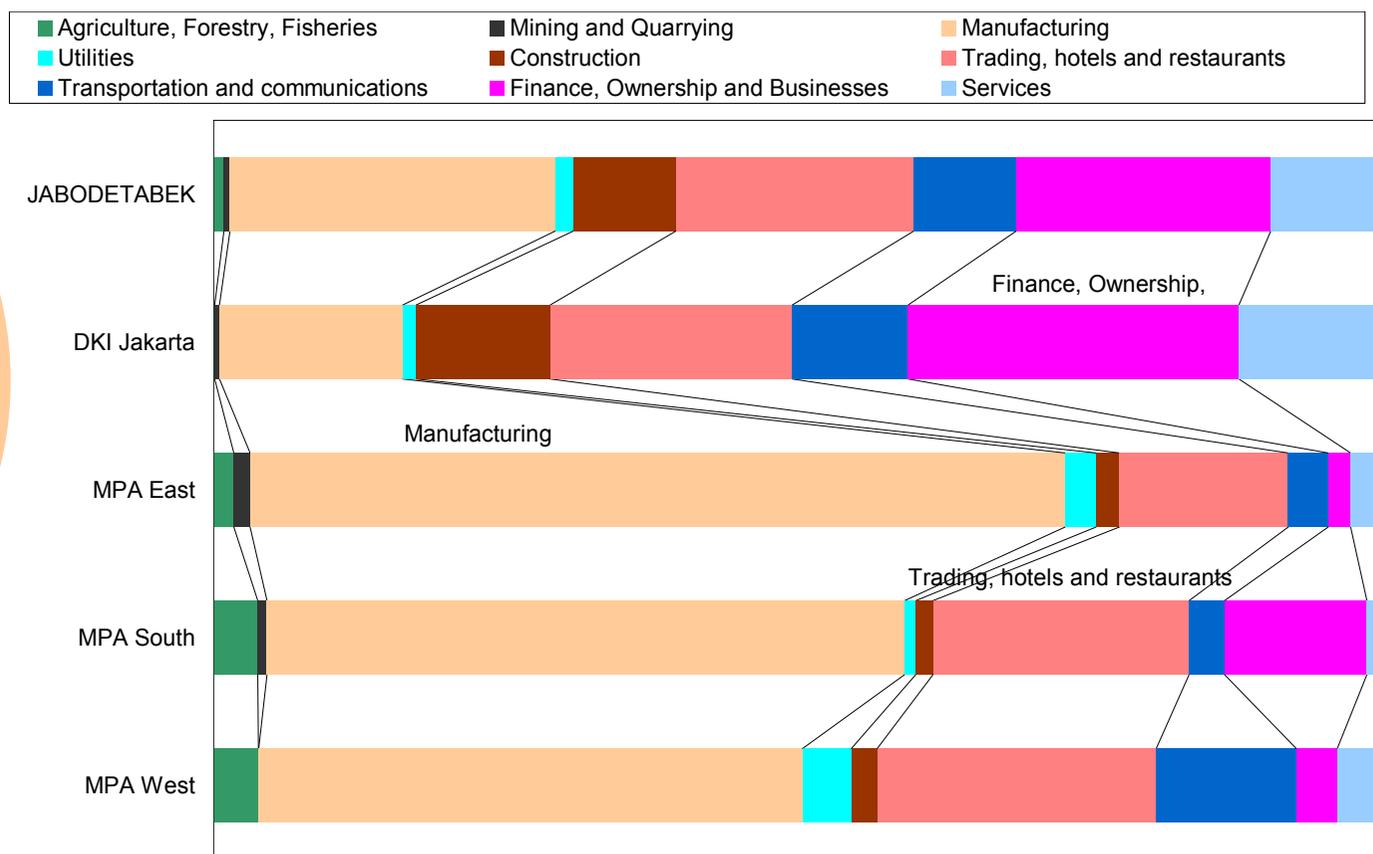
2.2 経済状況

a) 域内総生産(GRDP)の割合



Source: Compiled from BPS documents

b) 市・県別のGRDPのセクター構成



Source: Compiled from BPS documents

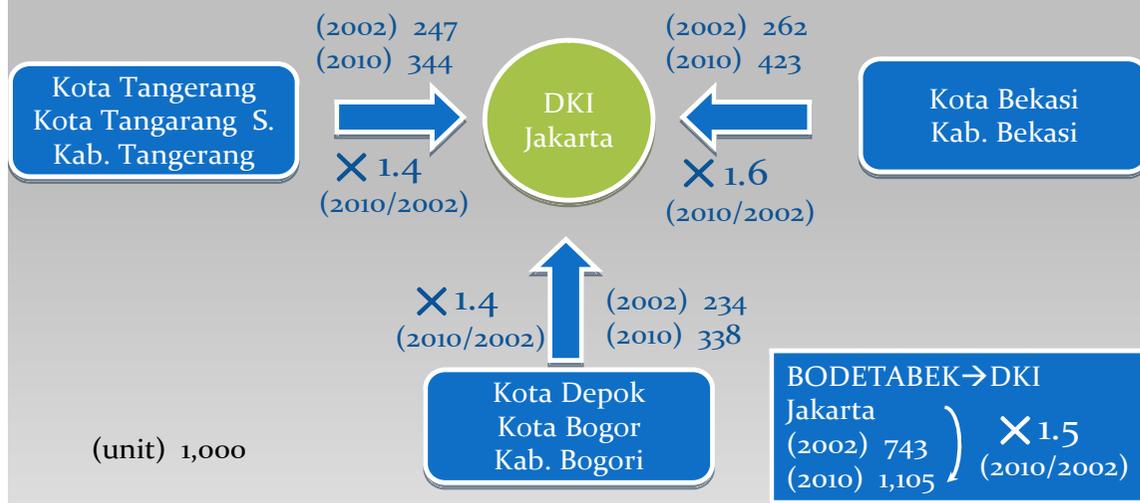
経済活動の大部分がジャカルタ特別州に集中している。

MPA東部地域の生産は製造業に依存している。

3. インフラ整備の状況

3.1 運輸

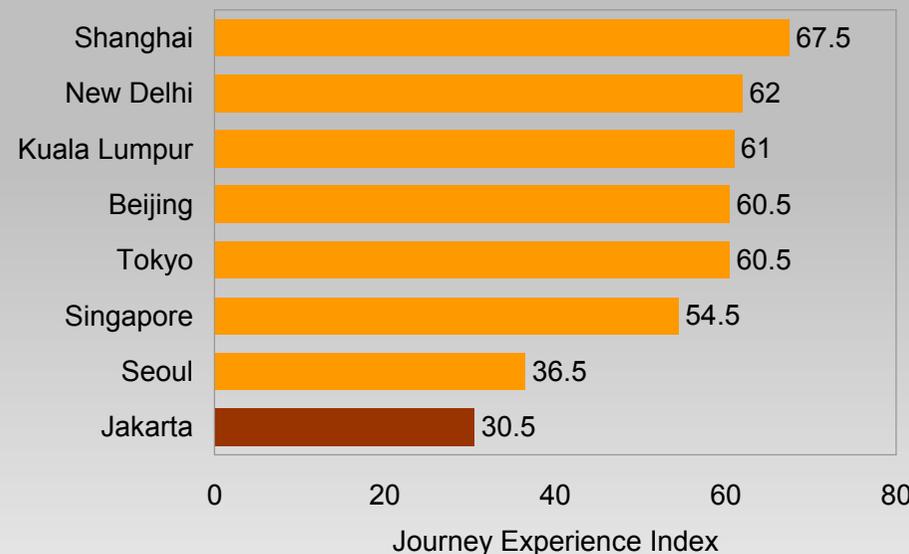
a) 通勤交通量の増大



(Source:JUTPI)

通勤交通によるピーク時の渋滞は深刻。

b) アジア主要都市における通勤客の公共交通に対する満足度



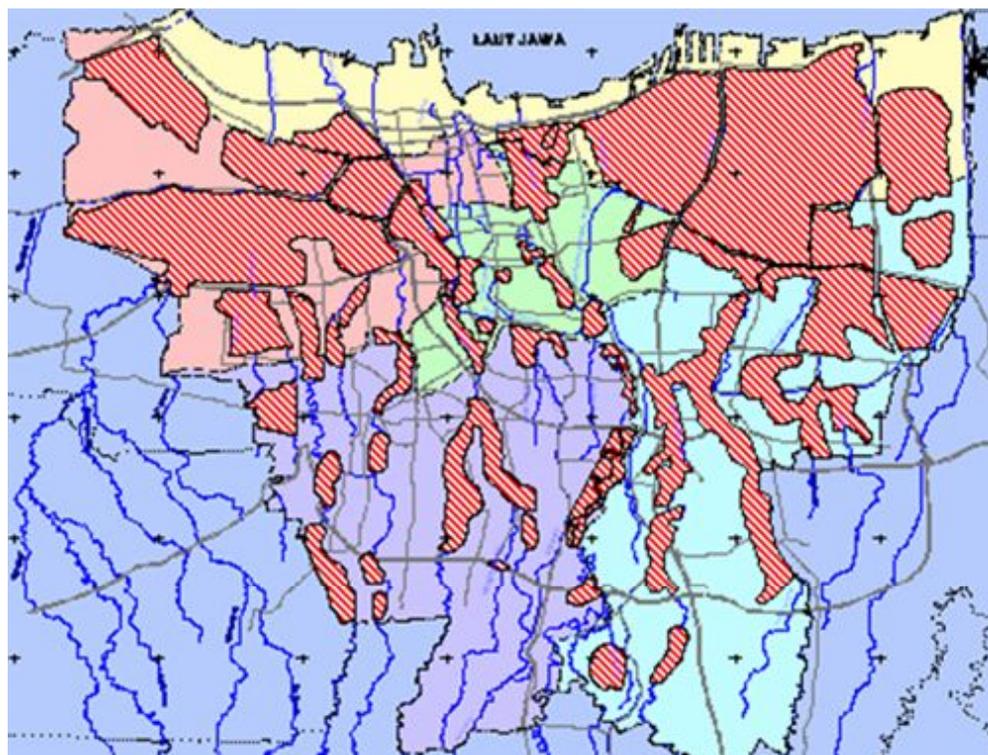
(Source: Frost & Sullivan, Journey Experience Index, May 2011)

ジャカルタの通勤者の公共交通に対する満足度はアジア主要都市の中で最も低い。

3. インフラ整備の状況

3.2 防災

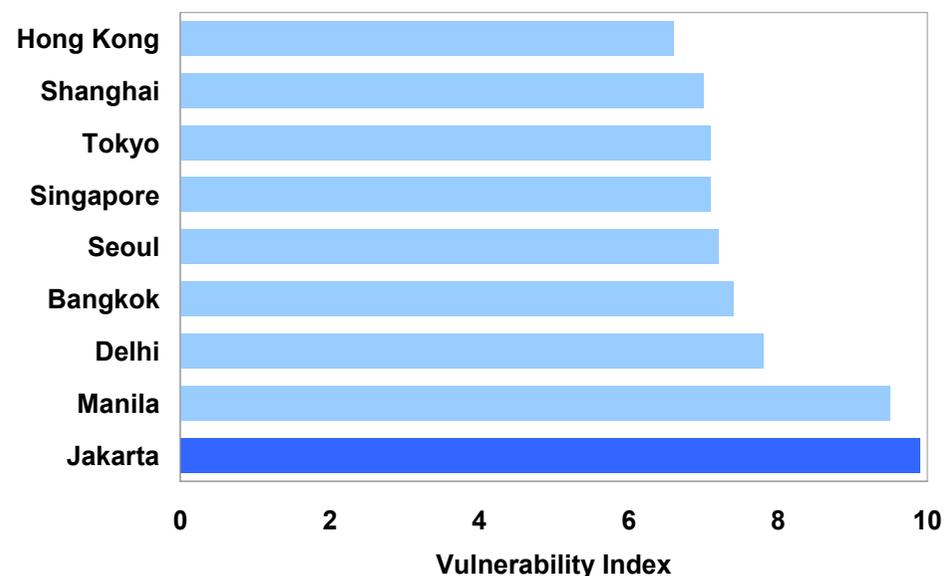
a) 2007年洪水の氾濫地域



Source: Balai Besar Wilayah Sungai Chiliwung- Cisadane

ジャカルタは周期的に甚大な洪水被害に見舞われる。

b) アジア主要都市の災害脆弱性



(Source: Munich RE (2005), Megacities – Megarisks Trends and challenges for insurance and risk Management)

洪水、地震、その他の自然災害に対する防災施設の整備が不十分。

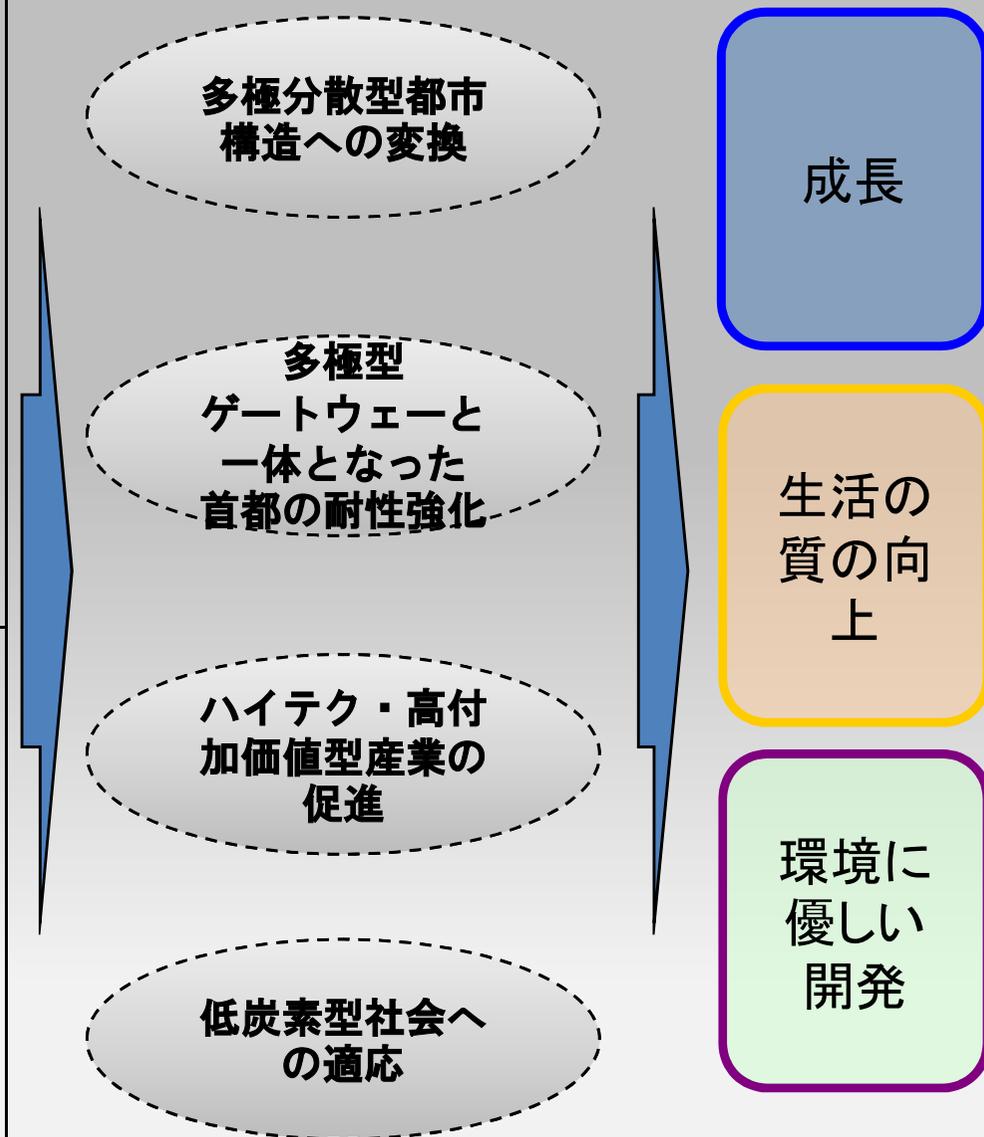
4. 2030年に向けたMPAビジョン

- SWOT分析の結果 -

	有利	不利
内部	<p>強み(Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治経済の中心 2,800万人の人口 6つの中核都市 	<p>弱み(Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性的な交通渋滞 電力需給および水需給のひっ迫 水質汚染 廃棄物処理施設の不足 自然災害に対する脆弱性
外部	<p>機会(Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口の多さ 健全な経済 豊富な天然資源 ASEANにおける巨大市場 市場統合と経済連携の加速化 	<p>脅威(Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> FDI獲得での低い競争力 不十分なインフラ 弱い技術革新力 外資企業による他国への投資 地球温暖化へのリスク

SWOTに基づくニーズ

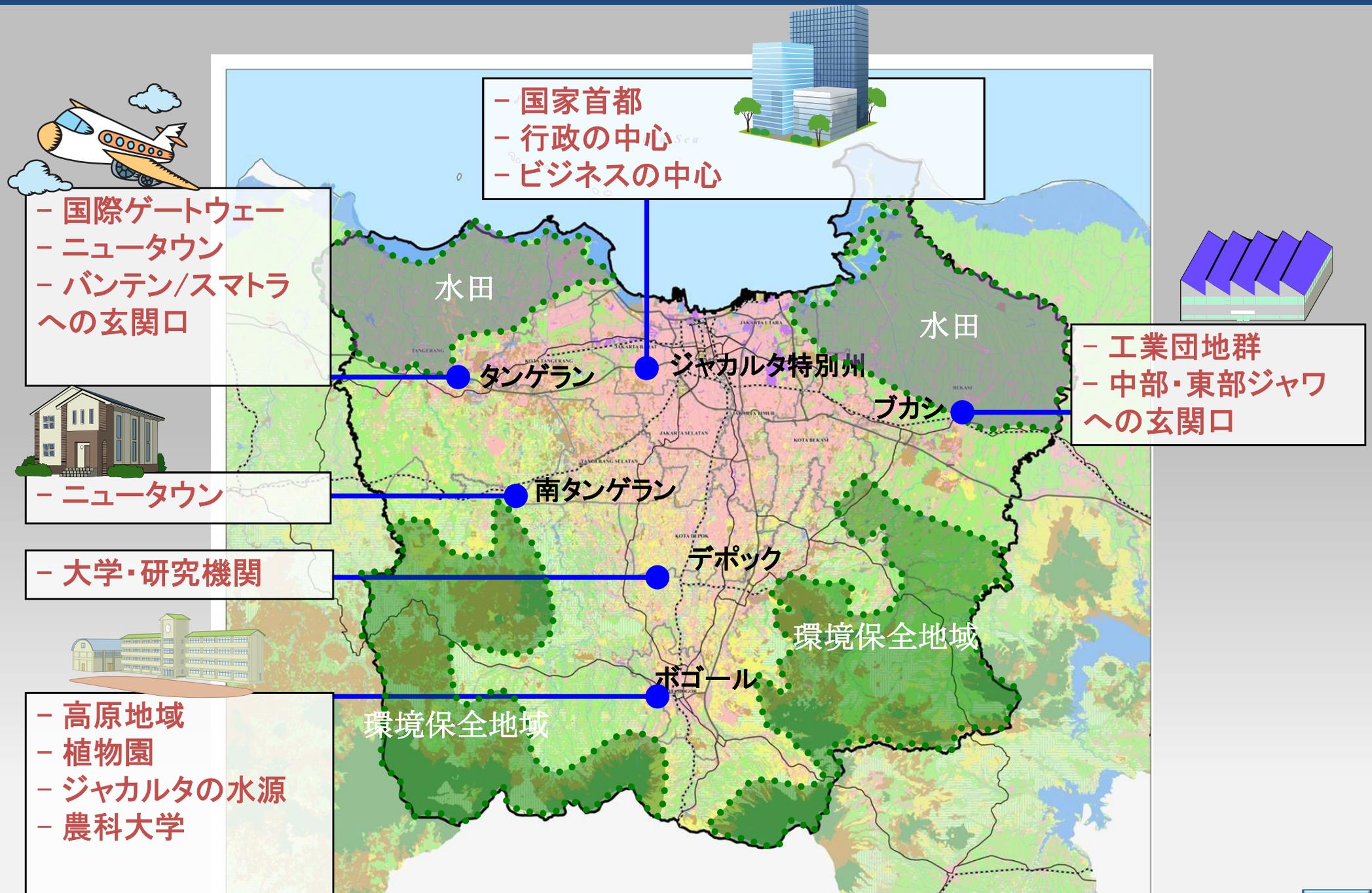
開発コンセプト



4. 2030年に向けたMPAビジョン – 開発基本理念,到達目標,プログラム-



4. 2030年に向けたMPAビジョン - 地域特性および制約 -

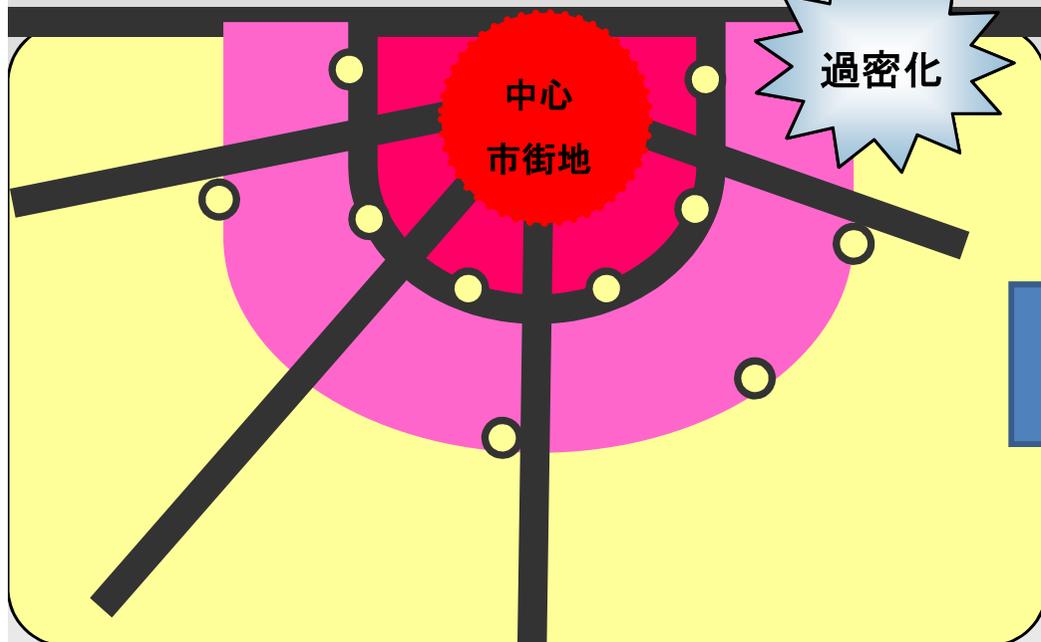


Source: MPA Study Team based on Regional Spatial Plan Jabodetabek-punjur (Presidential Decree No.54/2008)

4. 2030年に向けたMPAビジョン - 将来の空間構造 -

一極集中構造から多極分散型構造への転換

一極集中構造



Source: MPA Study Team

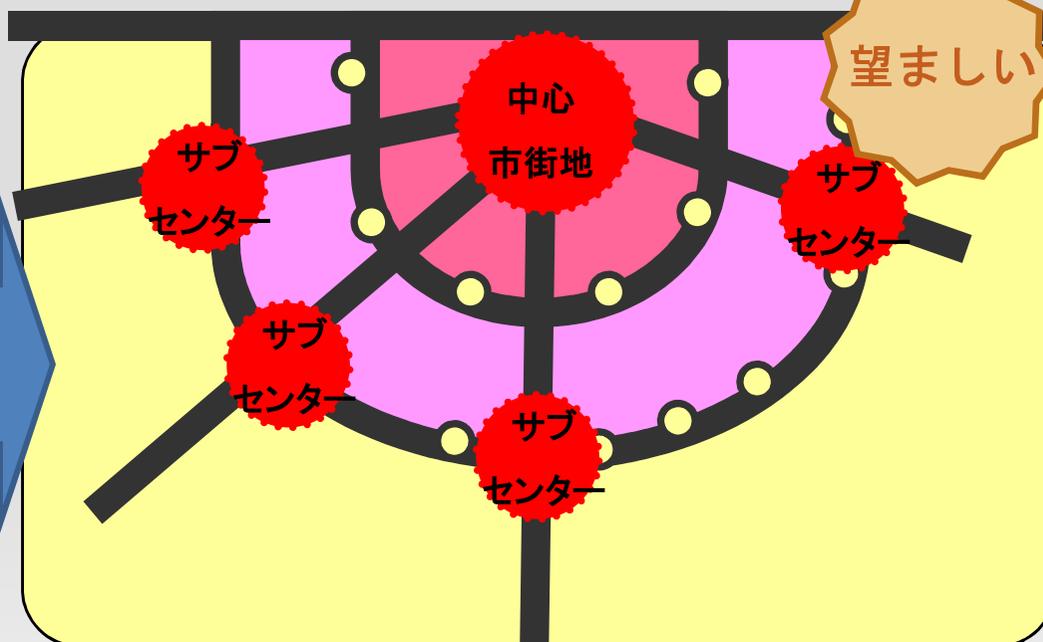
中心市街地への人・交通の過度な集中

大量輸送システムが必要 (例: 東京)

自然保護が困難

災害に対して脆弱

多極分散型構造



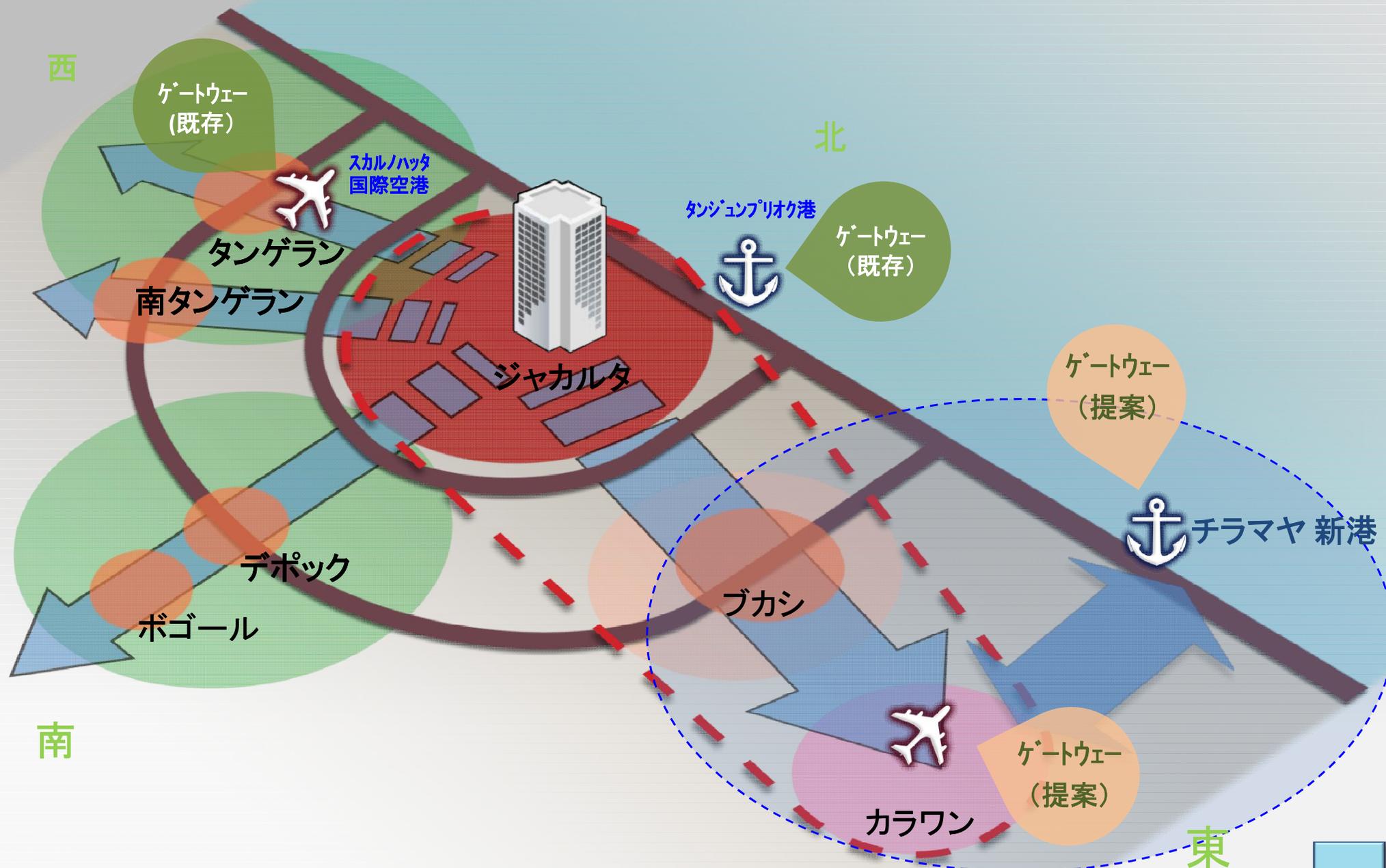
Source: MPA Study Team

交通渋滞が少ない

自然保護が容易

災害に対する耐性が高い

JABODETABEK MPA Development Vision 2030

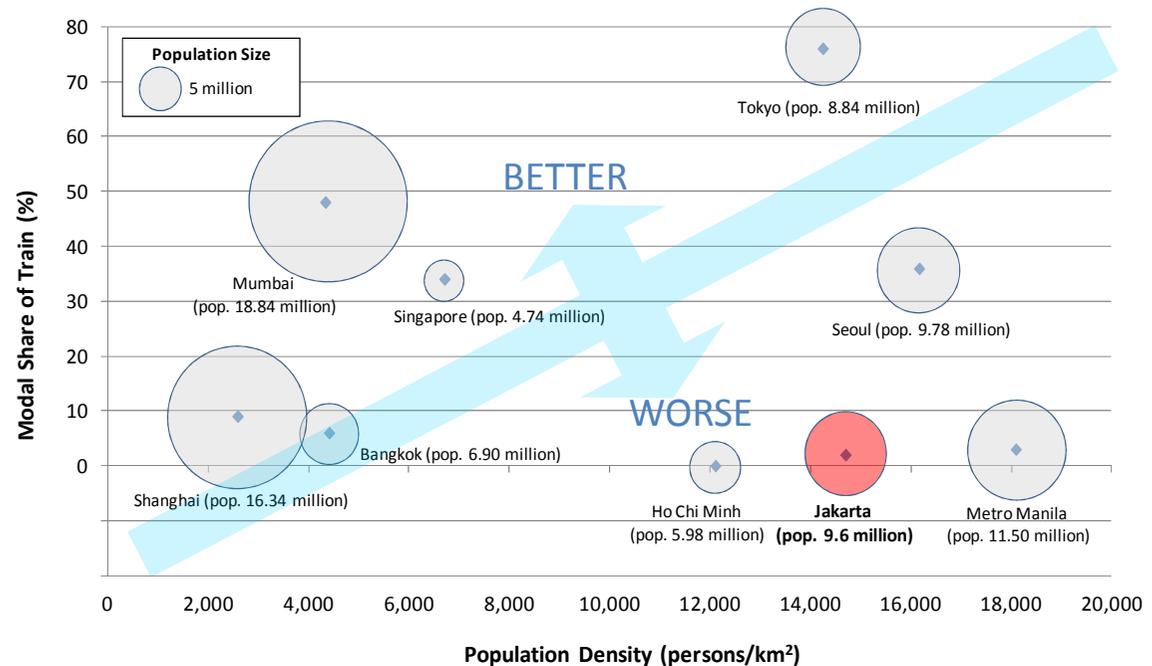


5. 2020年に向けたMPAマスタープラン戦略

5.1 他国の首都との比較

a) 鉄道分担率

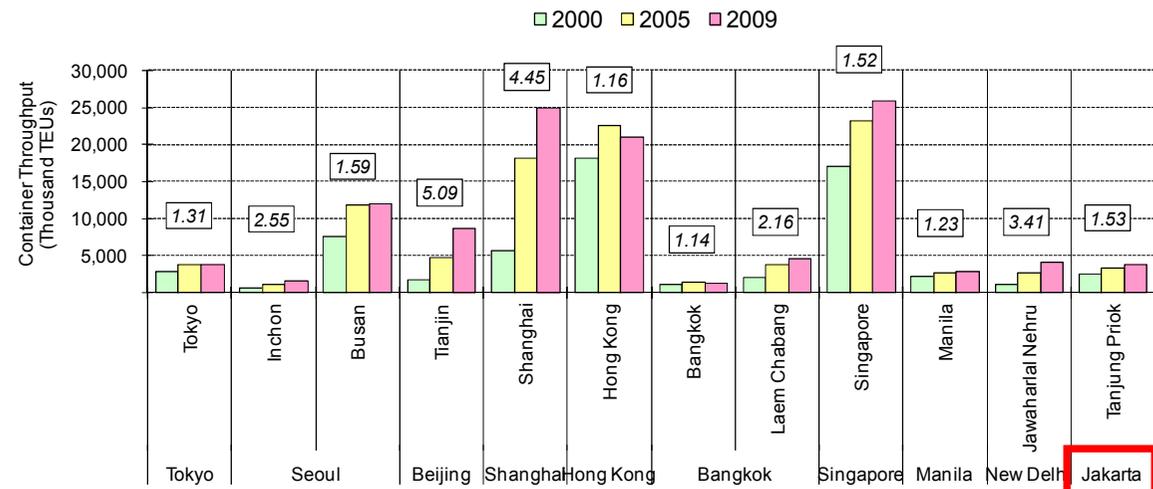
交通モードに占める鉄道分担率は他国に比して極めて低い。



Source: World Economic Forum, Global Competitiveness Report 2011-2012

b) コンテナ取扱量

インドネシアのコンテナ取扱量は他国に比して少ない。

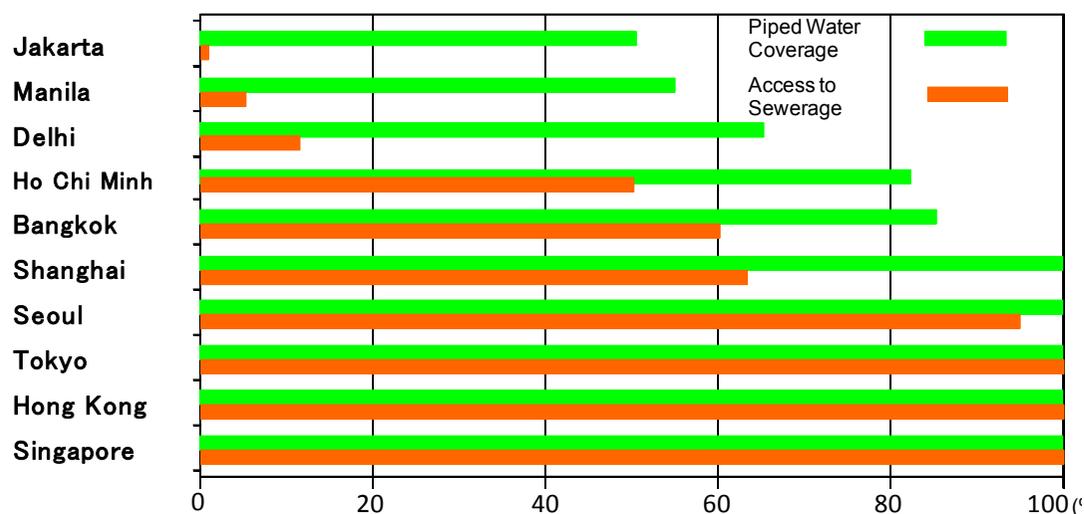


Source: Containerisation International Yearbook (Informa)

5. 2020年に向けたMPAマスタープラン戦略

5.1 他国の首都との比較

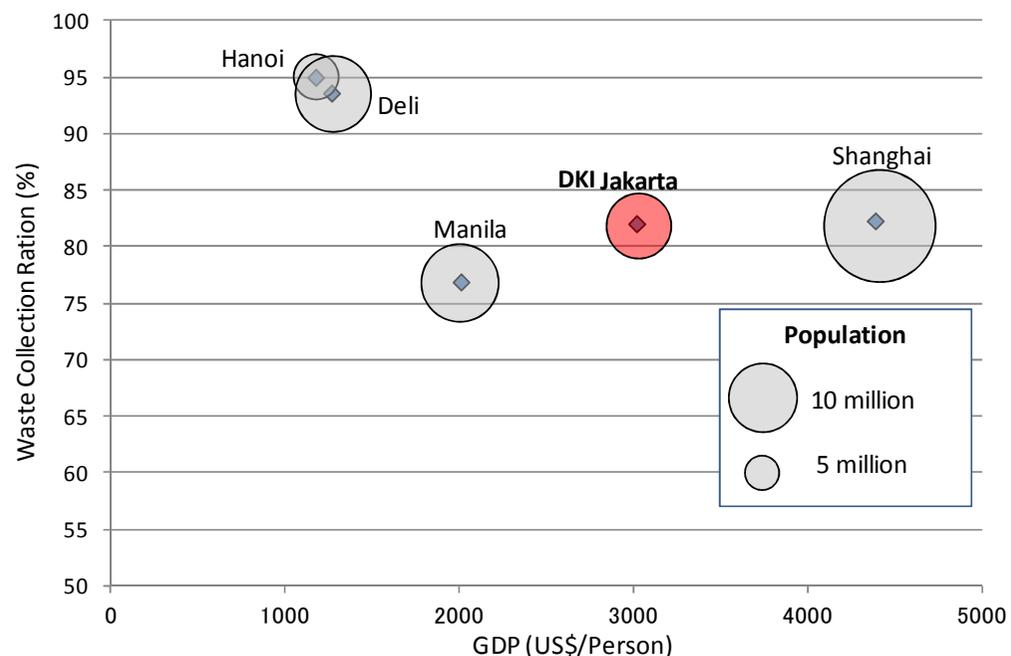
c) 上下水道整備



Source: Water Knowledge Center, ADB

上下水道普及率は他のアジアの主要都市の中で最も低い。

d) 廃棄物収集率



Source: MPA Study Team based on Asian Green City Index (Economist Intelligence Unit)

ジャカルタ特別州の廃棄物収集率は80%を超え、比較的高いが、ジャカルタ以外では23%から72%と低い。

5. 2020年に向けたMPAマスタープラン戦略

5.2 産業界（投資家）のインフラ整備に対するニーズ

インフラセクター		四大産業のインフラ整備に対するニーズ			
		自動車産業	電気・電子産業	化学産業	機械産業
道路	高速道路	***	***	*****	*****
	一般道路	*****	***	***	*****
港湾		***	***	*****	*
空港		*	*****	*	*
電力		***	*****	*	*****
上下水道		***	***	***	***

Note: *****: とても重要, ***: 重要, *: あまり重要でない

Source: Compiled based on Private Sector Perceptions of Challenges and Opportunities by Japanese Infrastructure Users by JBIC and NRI

5.3 MPAビジョンにおけるインフラ整備

VISION 2030 目標

2020年に向けたマスタープランの開発戦略 目標を達成するための 施策 9 インフラセクター

目標達成のための プログラム

A. 豊かな都市環境の創造

交通渋滞の解消

都市の緑化

安定的な水供給

環境汚染防止

洪水被害軽減

1. 公共交通

2. 道路

5. 都市開発
/工業団地

6. 上下水道

7. 廃棄物処理

8. 洪水管理

A1. 都市高速鉄道(MRT)を中核とした
新都市交通システム

A2. 都市内および周辺道路網の整備

A3. 都市再開発の推進

A4. 上水および下水の改善

A5. 廃棄物処理

A6. 洪水管理

B. 新しいサブ成長回廊の形成

多極分散型都市構造への変換

ハイテク・高付加価値型産業の促進

サブ成長回廊の骨格形成

5. 都市開発
/工業団地

1. 公共交通

2. 道路

B1. 新港湾・新空港周辺地域の開発

B2. アカデミックリサーチクラスター

B3. 新しいサブ成長回廊内の道路および
鉄道網の整備

C1. チラマヤ港の開発

C. 多極型ゲートウェイの開発

既存物流拠点の拡充

新規物流拠点の整備

3. 空港

4. 港湾

C2. タンジュンプリオク港の改善

C3. 新国際空港の開発

C4. スカルノ・ハッタ空港の改善

D. 低炭素エネルギーの開発

省エネルギー化

9. 電力

D1. 低炭素型電力の開発

D2. スマートグリッドの開発

6. 2020年に向けたセクター別マスタープラン

セクター	効果指標 (from 2010 to 2020)	マスタープランに掲載されている主要事業
公共交通	鉄道/バスによる旅客輸送の増大 27% から 45% に増大	- ジャカルタ都市高速鉄道 (MRT) - ジャカルタ首都圏鉄道輸送能力増強 - スカルノ・ハッタ国際空港アクセス鉄道建設 など
道路	平均走行速度の改善 7 km/時 から 15 km/時に改善	- ジャカルタ首都圏道路ネットワーク改善 - ジャカルタ外環道路の整備 - 新国際空港へのアクセス道路の整備 など
都市開発	多極分散型構造の加速化 400万人規模の新規郊外都市開発	ニュータウンシップ開発 など

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

6. 2020年に向けたセクター別マスタープラン

セクター	効果指標 (from 2010 to 2020)	マスタープランに掲載されている主要事業
工業団地	工業団地開発の促進 6,800 ha の新規郊外開発	- 新空港周辺の新工業団地開発 など
上水道	上水道普及率の向上 (ジャカルタ特別州) 54% から77%に増大	- ジャカルタ首都圏水供給 など
下水道	下水道普及率の向上 2% から20%に増大	- ジャカルタ下水道整備 など
廃棄物	適正処理容量の向上 4,500 ton/日 から9,000 ton/日に増大	- 西ジャワ廃棄物複合処理施設建設 など
洪水対策	洪水時の海への排水能力の向上 排水能力 (60 m ³ /s から 126 m ³ /sに増強)	- プルイット排水機場改修 - ジャカルタ特別州都市排水システム整備 など

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

6. 2020年に向けたセクター別マスタープラン

セクター	効果指標 (from 2010 to 2020)	マスタープランに掲載されている主要事業
港湾	国際・国内コンテナ貨物取扱能力の向上 720万 TEUs から1160万TEUsに増大	- 北カリバル改修及び拡張(タンジュン・プリオク港) - チラマヤ新国際港整備・アクセス道路整備 など
空港	年間旅客取扱能力の向上 2200万人から 9000万人に増大	- スカルノ・ハッタ国際空港拡張 - 新国際空港の開発 など
電力	需要ピーク時の電力供給予備力の向上 30%以上	- インドラマユ石炭火力発電計画 - ジャワ＝スマトラ連系送電線計画 など

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

技術委員会の提言(1)

技術委員会は、インフラ整備に関する包括的なアプローチを盛り込んだビジョンおよび戦略を取り纏めたマスタープランを支持し、以下を提言する。

運営委員会が「ジャカルタ首都圏投資促進特別地域(MPA)マスタープラン」を承認すること。

II. 早期実施事業および優先事業

1. 概要

早期実施事業：2013年末までの着工を目指す事業

優先事業：2020年までの完了を目指す事業

早期実施事業

(10億ルピア)

合計	214,100 (100%)
民間	120,200(56%)
政府	93,900(46%)
インドネシア 政府	15,100(7%)
日本のODA その他の外国援助	78,800(37%)

上記を除く優先事業

(10億ルピア)

合計	197,200 (100%)
民間	106,900 (54%)
政府	90,300 (46%)
インドネシア 政府	43,400 (22%)
日本のODA その他の外国援助	46,900 (24%)

合計

(10億ルピア)

合計	411,300 (100%)
民間	227,100 (55%)
政府	184,200 (45%)
インドネシア 政府	58,500 (14%)
日本のODA その他の外国援助	125,700 (31%)

注: 金額は暫定的試算値

2. 早期実施事業

1. 特定された事業: 9 セクターの18事業

セクター	事業
港湾	北カリバル改修及び拡張(タンジュン・プリオク港)、チラマヤ新国際港整備・アクセス道路整備
工業団地	スマートコミュニティ(東ジャカルタ工業団地パイロットプロジェクト)
公共交通	ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)、ジャカルタ首都圏鉄道輸送能力増強
道路	ジャカルタ首都圏道路ネットワーク改善、ジャカルタ東部工業地域道路ネットワーク
空港(関連施設含む)	スカルノ・ハッタ国際空港アクセス鉄道建設、スカルノ・ハッタ国際空港拡張
上下水道	ジャカルタ首都圏水供給
廃棄物処理	西ジャワ廃棄物複合処理施設建設
洪水管理	プルイット排水機場改修
電力	ジャワ=スマトラ連系送電線計画、インドラマユ石炭火力発電計画、バンテン石炭火力発電所、ガス火力発電所及び浮動式貯蔵設備開発、ラジャマンダラ水力発電計画、中部ジャワ石炭火力発電計画

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

2. 早期実施事業

2. 本日時点での主な進捗

■ 日本政府による資金供与決定済

早期実施事業全18件のうち、4件に対し既に日本政府により資金協力決定済み。

- ✓ 円借款: ジャカルタ都市高速鉄道 (MRT) (第1期事業&第2期事業E/S),
インドラマユ石炭火力発電計画(E/S),ジャワ＝スマトラ連系送電線計画
- ✓ 無償資金協力: プリット排水機場改修

■ 案件形成

- ✓ 早期実施事業16件に関するF/S調査が完了し、早期実施事業2件のF/S調査を実施中。
- ✓ 早期実施事業3件が入札終了、4件が入札中。

例) (入札終了) プリット排水機場改修

(入札中) ジャカルタ都市高速鉄道(MRT) 南北線 (Phase 1: 建設工事, 車両調達, および電気・機械システム), ジャワ＝スマトラ連系送電線計画

- ✓ 早期実施事業5件についてコンセッショネア選定済み。

例) スカルノ・ハッタ国際空港アクセス鉄道, 中部ジャワ石炭火力発電計画

南北線の進捗

MP3EI 事業

- ▶ 第I期 (Lebak Bulus-Bundaran HI)
 - 建設工事、車両調達、電気・機械システムの入札の実施中
 - 本年中に地下区間の契約締結予定
- ▶ 第II期 (Bundaran HI-Kampung Bandan)
 - インドネシア政府がエンジニアリング・サービスに係る資金協力を要請し、日本政府は円借款供与を決定済み

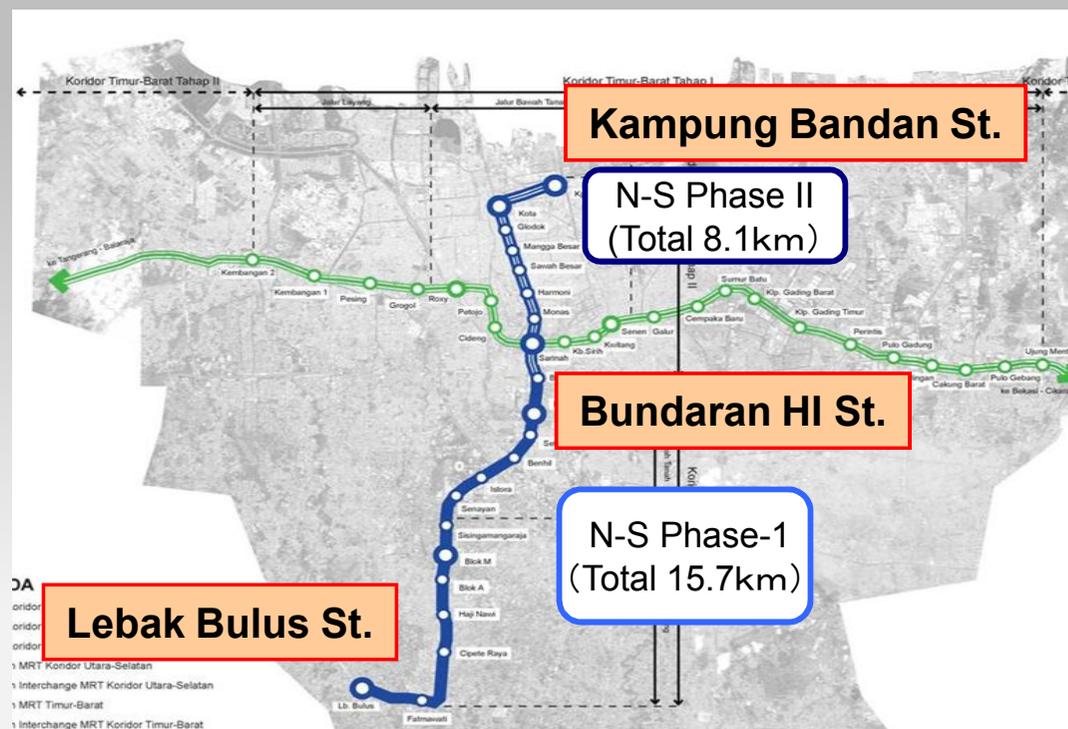


東西線の進捗

- 実施体制含め、エンジニアリング・サービスの範囲を検討中

今後の加速化に向けた課題

- 南北線:
 - ✓ Blue Book掲載 (第I期 および第II期)
 - ✓ 第II期工事の資金協力要請
- 東西線:
 - Blue Book掲載、エンジニアリング・サービスに係る資金協力要請



チラマヤ新国際港整備の進捗

MP3EI Project

- ▶ 2012年4月、JICAによるマスタープラン調査を完了。
- ▶ 2012年1月、JICAによるF/S調査を開始。現在、調査実施中。

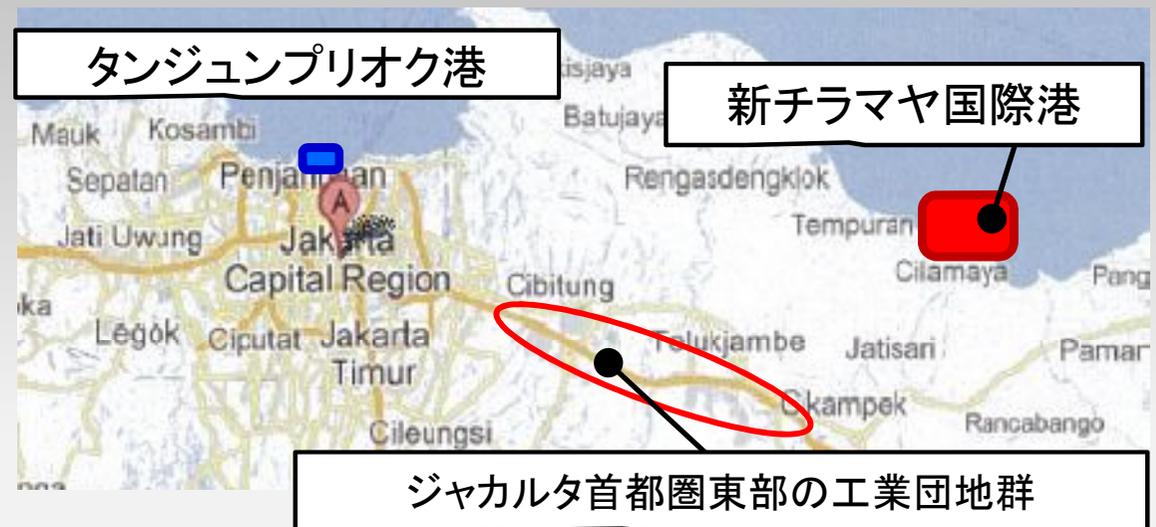
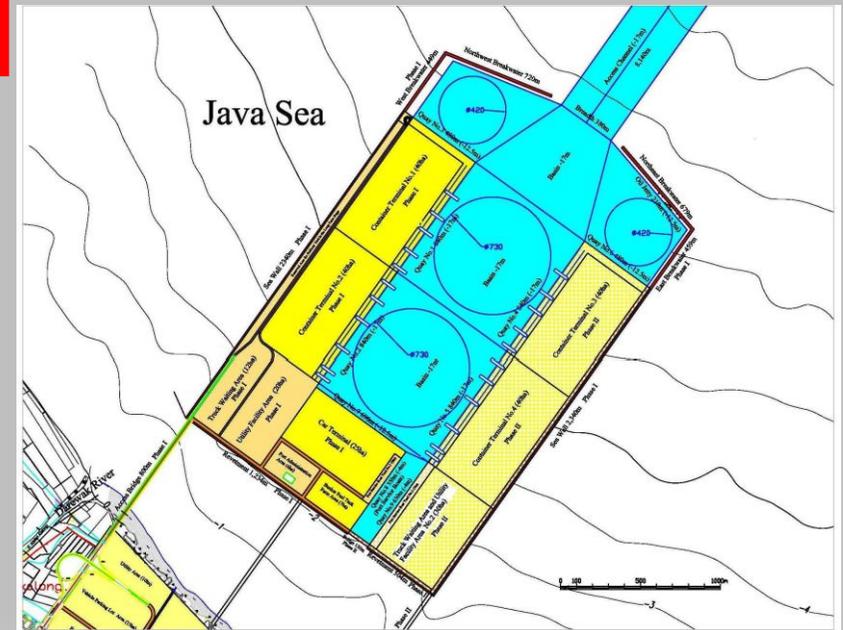
チラマヤ新国際港整備の必要性

- ▶ コンテナ貨物の増大する需要に対応要。
(2030年に19,360,000 TEUsに達する見込み。
2011年の実績の3.6 倍に相当)
- ▶ ジャカルタ-チカンペック高速道路を經由して首都圏東部の工業団地からタンジュンプリオク港を往復する陸上輸送の過大な交通量に起因して発生するジャカルタ市内の渋滞を回避する必要あり。
- ▶ 新しいゲートウェイとしての連結性向上および産業クラスター形成に寄与する必要あり。

早期の運営開始は、貨物取扱量増への対応、陸上輸送の渋滞回避のため重要。

今後の加速化に向けた課題

- ▶ Blue Bookに掲載、エンジニアリング・サービスに係る資金協力を要請。
- ▶ 同港アクセス道路建設のための実施機関の決定



3. 優先事業

1. 選定された事業: 15プログラムの45事業 (うち早期実施事業は18事業)

プログラム	主要事業
都市高速鉄道(MRT)を中核とした 新都市交通システム	・駅前広場整備、パーク&ライドシステムの強化(*1) ・ジャカルタモノレールの整備
都市内及び周辺道路網の整備	・ジャカルタ外環道路の整備 ・ジャカルタ首都圏への高度道路交通システム(ITS)の導入
都市再開発の推進	・都市開発/都市再開発モデル事業
上水および下水の改善	・ジャカルタ特別州・ブカシ県・カラワン県における上水設備 のリハビリ ・ジャカルタ下水道整備(*1)
廃棄物処理	・タンゲラン地域における新埋め立て処分場開発(*2)
洪水管理	・ジャカルタ特別州都市排水システム整備
新港湾・新空港周辺地域の開発 (新しいサブ成長回廊)	・ニュータウンシップ開発 ・新空港周辺の新工業団地開発

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

(*1) JICA PPP F/S
(*2) METI F/S
(*3) JICA M/P

3. 優先事業

プログラム	主要事業
アカデミック・リサーチ・クラスター	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミック・リサーチ・クラスターの開発 (スルポン、ブカシ、ボゴール)
新しいサブ成長回廊内の道路および鉄道網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・第二チカンペック高速道路の整備(*2) ・新チラマヤ新港への貨物鉄道の整備 ・新空港へのアクセス道路の整備 ・新国際空港を経由するジャカルタ・バンドン高速鉄道の整備 (*2)
ジャカルタ首都圏第二港湾(チラマヤ新港)の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・チラマヤ新港の自動車ターミナル整備 ・物流団地の開発 (新港の周辺設備)
ジャカルタ港の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・北カリバル港の自動車ターミナル拡張
新国際空港の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・新国際空港の開発 (*3)
スカルノ・ハッタ空港の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・スカルノ・ハッタ国際空港拡張(*3)
低炭素型電力の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・代替可能及び低炭素型発電事業(地熱発電など)の推進
スマートグリッドの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャカルタ首都圏における電力供給の改善

詳細は“List of Fast Track Projects (FTPs) and Priority Projects”を参照

(*1) JICA PPP F/S
 (*2) METI F/S
 (*3) JICA M/P

3. 優先事業

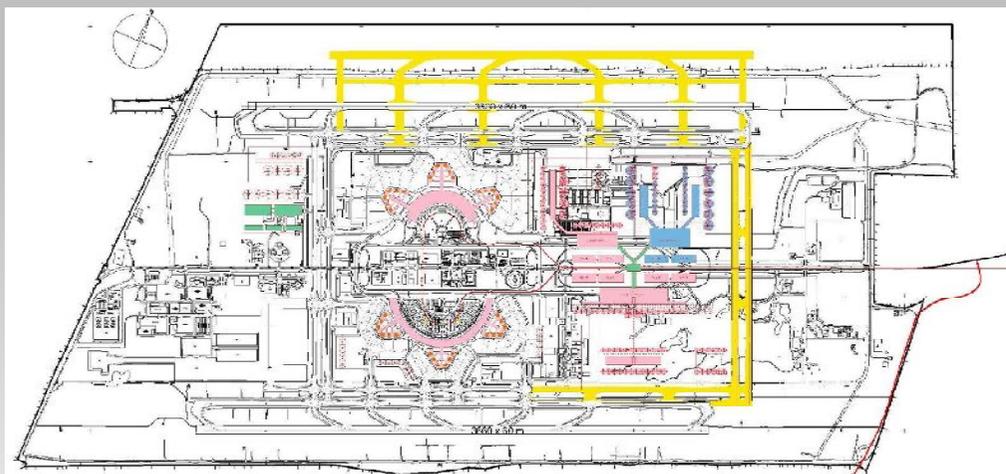
2. 優先事業について投資家にとっての潜在的リスク (早期実施事業を含む)

計画段階	施工段階	運営段階
<ul style="list-style-type: none">●空間計画との整合性●官民のリスクおよび責任分担●事業運営者の選定手順に関する政府による意思決定 (solicited/ unsolicited)●不十分な準備のもとでの、選定の開始●関係省庁間、関係国営企業間の連携	<ul style="list-style-type: none">●政府保証の発行●用地取得, 住民移転、森林地域における開発許可取得●開発地域および工事に係る許可取得●Viability Gapを軽減するための補助施策	<ul style="list-style-type: none">●運営モデル (料金設定、需要予測など)
	<ul style="list-style-type: none">●開発許可、事業運営許可に関する条件の変更●財政に係る法制度の変更 (補助金, 料金, 送金、など)●環境および社会モニタリング	

スカルノ・ハッタ国際空港拡張

プロジェクト概要

運輸省のマスタープランに基づき、航空需要の急速な増加に対応するためスカルノ・ハッタ国際空港の第三滑走路の建設及びその他施設の改善を行うもの。



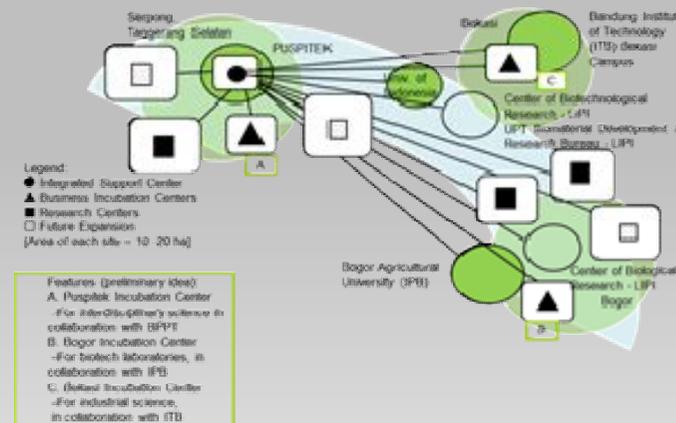
今後の検討課題と対応

- 土地収用及び住民移転を含むプロジェクトの実施準備

アカデミック・リサーチ・クラスターの開発

プロジェクト概要

既存の産業資源と科学研究の成果、ビジネス活動の連携を強めることによる、付加価値産業の創出を目指すもの。プロジェクトサイトとしてスルポン、ブカシ、ボゴールを検討。



今後の検討課題と対応

- 経済産業省によるPre-F/Sの最終化(～2012.11)
- 経済産業省によるPre-F/Sを踏まえた追加調査の検討
- 民間セクターにとって魅力的なビジネスプランの形成(BPPTによる)
- PPPブック掲載
- 尼政府による支援(免税や減税、知的財産の保護、生物資源への優先アクセス権等)

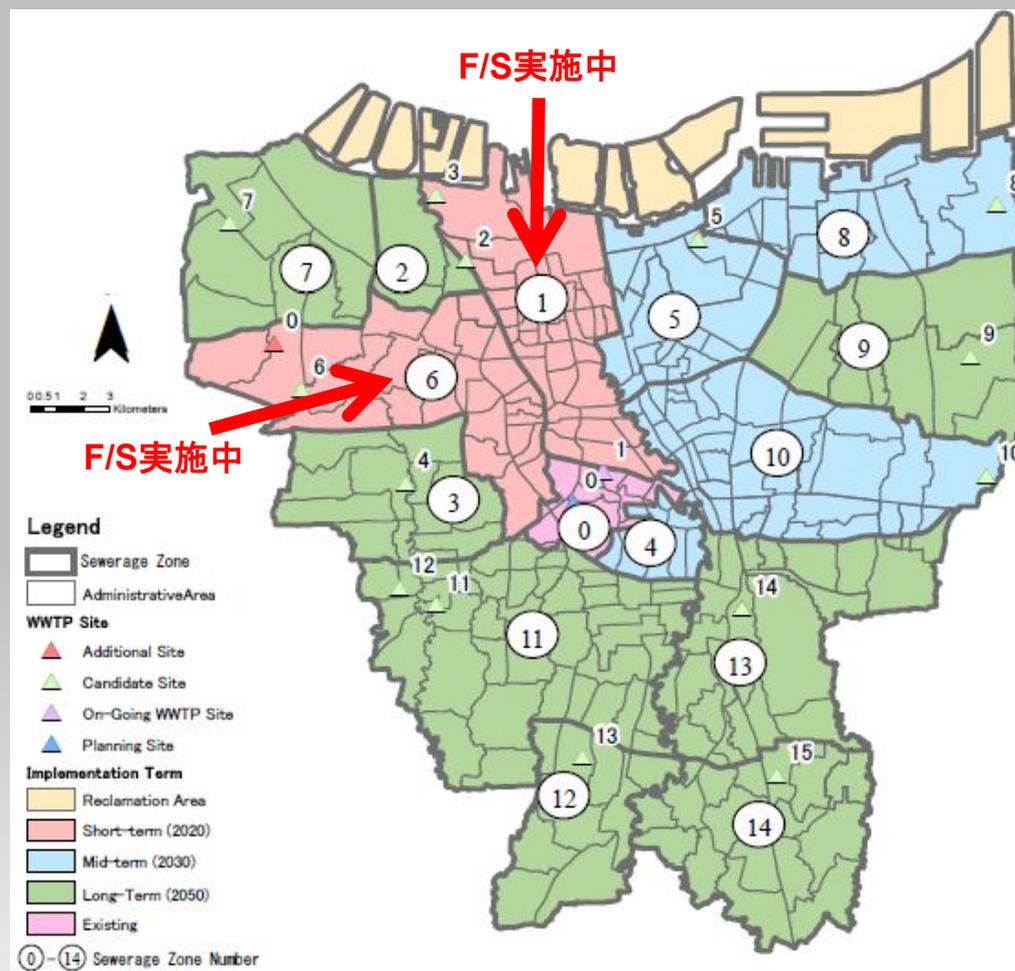
プロジェクト概要

- 改訂下水マスタープランに基づきジャカルタ特別州の下水道を整備（同州を15区域に分割、段階的に整備する計画）
- 下水処理施設・管渠の整備を通じてジャカルタ特別州の都市環境を改善するもの
- 現在第①区及び第⑥区（右地図参照）において事業化調査（F/S）を実施中

今後の検討課題

- ジャカルタ特別州における最適な下水処理システムの選択
- ジャカルタ特別州政府による下水道使用料金設定及び住民からの料金徴収方法の決定
- PPPスキーム活用の検討
- 下水道の運営・維持管理にかかる制度の制定・組織能力の強化

下水処理区域及び開発優先順位



Priority	Zone No.	Target Development Year
1	1	Short-Term Plan: Year 2012 to 2020
2	6	
3 to 6	4, 5, 8 & 10	Mid-Term Plan: Year 2021 to 2030
7 to 14	2, 3, 7, 9, 11, 12, 13 & 14	Long-Term Plan: Year 2031 to 2050

出所: JICA改訂下水マスタープラン

技術委員会の提言(2)

技術委員会は早期実施事業および優先事業の順調な進捗を支持し、以下を提言する。

運営委員会が、MPAの事業実施のモニタリングを継続するとともに、MPAのフラッグシップ事業として①ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)、②チラマヤ新国際港整備・アクセス道路整備、③スカルノ・ハッタ国際空港拡張、④アカデミック・リサーチ・クラスター、⑤ジャカルタ下水道整備の開発加速化に同意すること。

III. 今後の展開

技術委員会の提言(3)

技術委員会はMPA事業を加速するための一層の協働の必要性を確認し、以下を運営委員会に提言する。

- ✓ MPA運営委員会および技術委員会の定期的な開催を継続すべきである。また事業の加速化に向け、MPA実施チーム(MPA Implementation Team)を新しく選定すべきである。
- ✓ チラマヤ港に関連した周辺インフラ整備を支援するための円滑な物流に関する統合的な調査を含め、事業形成のための更なる調査の実施が模索されるべきである。
- ✓ MPA マスタープランおよび将来の進捗については、KP3EIの委員長であるインドネシア共和国大統領に報告されるべきである。

運営委員会への提言(まとめ)

I. 技術委員会の提言(1):

運営委員会が「ジャカルタ首都圏投資促進地域(MPA)マスタープラン」を承認すること。

II. 技術委員会の提言(2):

運営委員会が、MPAの事業実施のモニタリングを継続するとともに、MPAのフラッグ・シッププロジェクトとして①ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)、②チラマヤ新国際港整備・アクセス道路整備、③スカルノ・ハッタ国際空港拡張、④アカデミック・リサーチ・クラスター、⑤ジャカルタ下水道整備の開発加速化に同意すること。

運営委員会への提言(まとめ)

III. 技術委員会の提言(3):

- ✓ MPA運営委員会および技術委員会の定期的な開催を継続すべきである。また事業の加速化に向け、MPA実施チーム(MPA Implementation Team)を新たに立ち上げるべき。
- ✓ チラマヤ港に関連した周辺のインフラ整備を通じた円滑な物流を促進するための統合的な調査を含め、事業形成のための更なる調査の実施が模索されるべきである。
- ✓ MPA マスタープランおよび将来の進捗は、KP3EIの委員長であるインドネシア共和国大統領に報告されるべきである。

Terima kasih

ありがとうございました

